

青少年の伝承的遊びの経験について ——保育者養成課程の学生の実態調査から——

天 田 邦 子

— はじめに —問題の所在—

今日の子どもの遊びが、都市化、モータリゼーション化、マスコミの発達、情報化、商品玩具の大量生産・販売、コミュニティーの喪失などの社会状況の変化のなかで、大きく変わってきたことは、周知のとおりである。

すでに1970年前後の、高度経済成長下の子どもたちの遊び状況について、藤本浩之輔は大阪を中心に地域の実態調査に基づき、『子どもの遊び空間』を著して、その変容を次のように指摘した。⁽¹⁾急速な都市化によって、都会では原っぱや空き地がなくなり、自動車交通の激化のために道路で遊ぶこともできなくなった。一方、マスコミ、とくにテレビの大衆化と、学校や家庭における教育要求の増大によって、都市・農村を問わず、遊びの時間がこま切れ化してしまった。その結果、子どもたちの遊びは、空間的、時間的に圧迫される状況が生み出された。さらに、従来多くみられた、さまざまな年齢の子どもからなる近隣の遊び集団（タテ型の遊び集団）が衰退し、遊びが同年齢の仲間（ヨコ型の遊び集団）中心になり、子どもたちの仲間集団が変質した。藤本はまた、この時期にタテ型の遊び集団を通じて伝承されていた、遊び・遊び歌・遊びことば・遊び絵・手づくりの遊び道具、折り紙などの「子ども文化」が伝承されにくくなったことを指摘した。ことに、手づくりの遊び道具の衰弱・消滅ぶりは、商品としてのオモチャ、遊び道具、スポーツ用具の大量生産、大量販売が進行するなかで著しいという。⁽²⁾そして子どもたち自身も以上の要因を背景に、スポーツの隆盛、マスコミの発達などがからみあって、遊びに対する嗜好を変えてきた。

子どもの遊びを玩具の面からとらえても、市販の商品玩具による遊びが年々圧倒的となり、1960年代からマスコミ玩具の流行、商品玩具の高級化、多様化がすすみ、⁽³⁾1980年代からはファミコン・テレビゲームが、子どもたちの遊びに大きな影響を与えてきた。あまりにも豊富になったオモチャの世界のなかで、子どもたちは遊び道具に対して主体的に立ち向かい、使いこなす態度を見失い、オモチャとの関係が受動的なものになり、いわば豊富のなかの貧困も生じている。

環境建築の視点で子どもの遊びをとらえる仙田満は、先出の藤本が指摘した1960年をピークにした日本の高度成長と軌を一にした子どもたちの遊び環境の変化を第一の変化といい、1980年からは第二の変化が始まっているとする。⁽⁴⁾彼は、子どもの遊び環境の第一の変化、第二の変化を第1表のように整理している。現在に続いている第二の変化については、あそび空間の一層の減少や機能分解化、内あそび時間が外あそび時間と比べて非常に長くなったこと、(第

1 図) あそび方法においてファミコン・テレビゲームの影響が絶大になったこと、あそび環境の変化が地方小都市や田園地域にまでおよんだこと、同学年同年齢集団ですら解体化し子どもの孤立化がみられることなどを指摘している。

三十年来、子どもの遊びと環境を追跡してきた仙田満のばあい、あそび環境は、あそび時間、あそび空間、あそび集団、あそび方法という四要素から構成されていると考え、それらが互いに影響しあっていると看する。そして、あそび環境の悪化の循環を以下のように述べ、悪化の循環の逆流を提唱している。

あそび時間がないから友だちがつかれないし、難しいあそび、複雑なあそびができない。短時間で簡単にできるあそびしか体験できない。あそびの方法が貧困化してしまう。あそびの醍醐味やおもしろさが味わえない、熱中できない、そしてあそびそのものに対する意欲さえ失ってしまう。あそび場が少なくなつて、子どもたちがあそびのたまり場を失い、それによつてはぐくんできたあそび集団が小さくなり、あるいはなくなる。そのこと

第1表 子どものあそび環境の変化

	第 一 の 変 化	第 二 の 変 化
あそび空間	縮小。1955年ごろにくらべ75年ごろには都市部で1/20、郊外部で1/10	1975年にくらべ1/2 小さく機能分解化している
あそび時間	縮小化。1965年ごろに内あそび時間が外あそび時間より長くなった（それまでは外あそび時間>内あそび時間）	内あそび時間が外あそび時間の4倍も長くなった（1990年） あそび時間の分断化
あそび方法	テレビの影響大	ファミコン・テレビゲーム（1983年～）の影響大
子ども部屋	個室化が進行	完全個室化に近くなった（90%以上の子どもたちが個室をもっている）
子どもの数	少子化傾向はそれほど顕著ではない	少子化傾向が進行 都市部での児童数は1975年ごろの1/2
親の世代	戦中・戦後世代	戦無世代
都市と田園	子どものあそび環境の悪化は、まだ都市部だけで、田舎ではまだまだ昔ながらのあそびがあった	子どものあそび環境の変化が地方小都市、田園地域までおよび、かえって田舎の方が都市よりもあそび環境が貧しくなった
経 済	高度成長期	安定～バブル経済期
住宅の形態	まだまだ和式の住宅が多かった	洋式化
あそび集団	ガキ大将集団から同学年同年齢集団に移行	同学年同年齢集団も解体化へ
都市部の緑	農地が開発されているが斜面緑地はかろうじて残っている	都市部の斜面緑地も北側斜面まで開発され、個人の林も、相続や土地高騰により開発されてきた

仙田満『子どもとあそび』1992年 岩波書店 174頁

によって大きい子どもから小さい子どもへ、おもしろいあそびの方法を伝えることができなくなり、あそびの方法が貧困化していく。さらにそのためにあそび意欲がなくなり、外あそびの時間がさらに少なくなっていく。このように子どもたちがあそびの時間や空間を

失うことによつ 仙田満『子どもとあそび』1992年 岩波書店 169頁

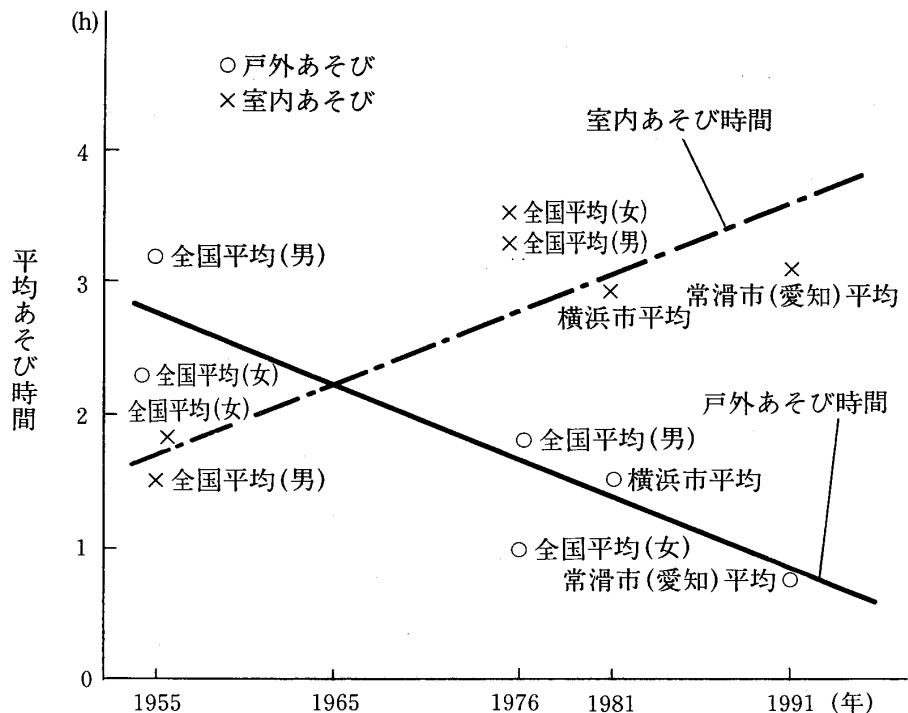
て、その方法や集団とも影響しあいながら、あそび環境はますます悪化していく。(中略)

あそび時間、あそび空間、あそび集団、あそび方法といったあそび環境に影響を与えるのは、社会構造、文化構造、都市構造である。社会構造としては地域社会の衰退、核家族化、産業形態の変化、少子化などが考えられ、文化構造としては情報化、合理主義、消費主義、知育主義、安全第一主義など、都市構造としては自然の喪失、車優先主義、住宅の合理化、都市の効率機能化などがあげられる。⁽⁵⁾

引用が長くなったが、幼児期、少年期、青年期の現代の子どもたちのあそびと環境の状況について、総体的に問題状況がとらえられている。当然のことながら、子どもを取り巻く社会的・自然的・文化的環境の変化と、その子どもの生活や遊びへの影響についての危機感は、保育・教育関係者の共有するものである。たとえば、1989年（平成元）に改訂された幼稚園教育要領の改訂理由や1990年（平成2）改正の保育所保育指針の検討過程においても、子どもたち自体に多様な人間関係体験や異年齢集団活動体験の不足、直接的体験・戸外遊びの不足などの問題が生じていることが強く認識されていた。

こうしたなかで、今の子どもたちの遊びに、子ども自身のうちから出る活力をよみがえらせるために、いろいろな主張と運動が各地で試みられているが、そのひとつとして、伝承遊びの見直しや、地域における伝承文化の復活運動があげられる。保育や教育の場においても、一方で新しい遊びの創造や、子どもたち自身の発想を生かす自由な遊びがすすめられると同時に、伝承遊びがかえりみられ、とりあげられることも珍しいことではなくなった。1986年（昭和61）に、日本保育学会が幼稚園・保育所関係者や大学・短大の研究者を対象に実施した「幼児

第1図 あそび時間の変化——室内あそびと戸外あそび——



第2表 優れた伝統として残したい保育内容

順位	残したい保育内容	頻数	%	男性	女性	私立	公立	国立
1	伝統的な遊び	255	28.9	24.3	<u>30.9</u>	28.5	25.7	32.7
2	物を大切にすること	194	22.0	18.7	<u>23.4</u>	22.4	22.8	<u>15.9</u>
3	伝統行事	172	19.5	16.2	<u>21.1</u>	20.0	18.6	20.6
4	自由遊び	161	18.2	19.4	17.7	17.2	16.2	<u>23.4</u>
5	感謝の気持ち	144	16.3	14.4	17.2	<u>18.1</u>	13.2	11.2
6	わらべうた	123	13.9	10.9	<u>15.4</u>	14.6	11.4	14.0
7	折紙	119	13.5	9.9	<u>15.1</u>	14.1	14.4	10.3
8	園外保育	115	13.0	14.1	12.5	11.6	13.2	<u>18.7</u>
9	昔話	113	12.8	10.6	13.9	12.0	15.6	14.0
10	善悪の判断	103	11.7	10.9	2.0	10.9	13.8	9.3
11	砂遊び	87	9.9	7.7	10.9	9.9	9.6	12.1
12	動物飼育	84	9.5	<u>12.7</u>	8.0	<u>7.8</u>	12.6	14.0
13	子どもを「子宝」として大切にすること	70	7.9	9.2	7.4	6.6	9.0	12.1
14	行儀作法	63	7.1	<u>10.2</u>	5.7	7.6	7.2	5.6
15	植物栽培	59	6.7	7.0	6.5	6.6	7.2	5.6
16	和の気持ち	51	5.8	5.6	5.9	6.1	<u>3.6</u>	7.5
17	人を救うこと	49	5.5	4.6	6.0	5.4	6.6	6.5

(注) 棒線は、他に比べて特に多いもの、または少ないもの。

村山貞雄他「幼児保育の検討に関する調査」

保育学年報1989年版『幼児の表現と保育』

日本保育学会 フレーベル館 327頁

保育の検討に関する調査」によると、「わが国の過去の保育内容のうち、とくに優れた伝統として、これからも残したいと思うもの」がある人は、81.0%にのぼった。その保育内容には第2表に掲げるように、伝統的な遊び（1位）、伝統行事（3位）、わらべうた（6位）、折紙（7位）、昔話（9位）など、広く伝承的な遊びに関するものが多く含まれている。⁽⁶⁾

このような保育・教育関係者の意向のもとで、滋賀県のように伝承遊びを生かした保育の指導資料づくりをすすめる自治体もでてきた。⁽⁷⁾ また、伝承性の強い遊びが喪失してしまった状況に対して、おとなたちが発掘し、子どもたちに伝承遊びをたくさん伝える術を模索すべきだという主張もある。望月重信は、家庭の親だけでなく、学校関係者もこのことに留意し、さらに大学の教育養成プログラムのなかにも「遊び学の教育実践」を取り入れることを提案している。⁽⁸⁾

しかし、このようにおとなが子どもの遊びに手をかすことが、本来の子ども独自の遊び世界への管理に転化しない条件が何であるか、実践に際しては十分考慮される必要があるだろう。前出の滋賀県のばあい、実際に地域の伝承遊びを収集し、保育のなかで実践、試行してみて、①すでに消滅したり、現代の子どもたちの生活にそぐわないと考えられる遊びの扱い ②伝承過程で変化している遊びを、原型に戻して保育に入れていくことのむずかしさ ③幼児には理解しにくい部分があること ④家庭や地域の協力の必要性 ⑤保育者の中に、収集した伝承遊びを知らない人が大半を占める現状 ⑥伝承遊びの原型と遊びの発展として子どもたちが創意工夫を加えていくこととの関係などの問題が生じたとしている。そして、「伝承遊びが薄れてきている現在、保育者が意図的に入れていかなければならないものが多いが、その方法や時期、人数や場を考慮する必要がある。保育者の指導が強く押し出されると、参加させられたという意

識になり、受身的な、望ましくない活動になってしまう。保育者は、自発的、継続的に遊べるようにきっかけをつくり、自分たちの遊びとして創意工夫できる段階まで高める指導が必要である⁽⁹⁾と、保育者の援助のあり方、すなわちおとなの手の貸し方を位置づけている。

確かに保育者・教育者のなかにも、親世代にも伝承遊びを経験しなかった人、知らない人が増えており、実施に際してはこのような課題もでてこよう。そこで保育者養成における、いわば「遊び学の教育実践」カリキュラムの可能性、保育の場での伝承遊びの可能性を探っていくための基礎的資料として、養成過程にある短期大学幼児教育科の学生を対象に、伝承的遊びの経験に関する調査をしたので報告する。

なお、伝承遊びは一般に古くから伝え継がれてきた童遊びをさし、時代をへて変容したり姿を消したり、新しくなったりしながら伝承されている、実に4000種以上もの遊びをいう。本論では、1980年代に子ども時代をすごした学生を対象に調査したので、回答者たちはいわば現代化した伝承遊びや、絵かきうたとして、ドラエモン、パーマン、アンパンマン、オバQなどのテレビのアニメ主人公を描くなど、テレビ文化と結びついたものを経験している。あるいは年中行事として、伝統的行事と同時に、地区育成会等によるお正月のお楽しみ会、夏のキャンプや肝試し、スイカ割り、あるいは幼稚園、保育所、学校で行われた、やきいも大会や餅つきなどの行事を共存的に経験した世代である。それらの事情を考え、本論では伝承的遊びということばも用いた。

二 伝承的遊びの調査の概要

調査対象は、上田女子短期大学幼児教育科の学生である。大多数が18～20歳で、10歳前後の子ども時代を約10年前、1980年代なかば頃にすごした世代である。仙田満のいう、あそび環境の第二の変化が始まる時期でもある。総回答数は、322名であったが、今回の報告では、伝承遊びのもつ地域性を勘案し、子ども時代を長野県で過ごした238名と、新潟県の39名の回答をとりまとめて分析したい。他の45名は、多くの都府県にちらばっているため、この報告では分析対象からはずした。

調査方法は、必要な設問事項を記した調査用紙を配布し、記名して回答する方法をとった。記名は、記載のあった行事や遊び方などがよく理解できないばあいを確認するためである。

調査は1995年6月（2年生）と11月（1年生）に行った。

調査項目によっては、全員の回答が得られなかったが、全体に対する比率をよみとるための参考として、とくに無記入者が多かった項目には、必要に応じて無記入者数を出した。

調査事項は、以下のものである。

年中行事

模倣的な伝承遊び（種類、遊び方、遊んだ場所、人数）

歌と動作が一体となった伝承遊び（種類、遊び方、遊んだ場所、人数）

運動的な伝承遊び（種類、遊び方、遊んだ場所、人数）

野の玩具（材料、つくり方、遊び方、図）

ことば遊び（えかきうた—図とあそびのことば、替えうたなど）……

季節的に特色がある伝承遊び（春、夏、秋、冬）

思い出に残る遊び場の絵地図

回答様式は、選択式ではなく、記述式とした。自由回答で、記述する遊びの数は制限せず、むしろ経験した遊びを「なるべく多く」回答してほしいという指示をした。そのため、遊んだ経験はあるが思い出さなかったため記入しないケースも若干考えられる。反面、よく遊びこんで自身の遊びとして定着していたものは、より多く記述されたと考えられる。

三 結果と考察

1 年中行事の遊び

かつて、四季折々の節目に「ハレ」の遊びとして人々の生活の中で宗教や労働と結びついて、かつ子どもも深くかかわりをもっていた年中行事について、かかわった経験をきいた結果が、第3表である。長野県では、どんど焼き（三九郎、70.6%）、七夕（54.2%）、節分（52.9%）、ひなまつり（45.4%）、お盆（33.2%）、端午の節供（29.0%）、餅つき（27.7%）、七五三（27.3%）の順に経験されており、特にどんど焼き、七夕、節分、ひなまつりが多かった。新潟県では、節分（56.4%）、七夕（53.8%）、ひなまつり（48.7%）、どんど焼き（43.6%）、お盆（41.0%）、端午の節供（35.9%）、餅つき（30.8%）の順である。これらの行事には、お盆のように主に家庭で行われたもの、どんど焼きのように主に地域で行われたもの、餅つきなど主に幼稚園、保育所、学校などで経験したと思われるもの、またひなまつりや七五三のように幼稚園、保育所と家庭と複数の場で経験したであろうものが混じっている。

これら行事の中には、1960年代に急速に姿を消し、その後の「ふるさとづくり」「村おこし」などの地域振興をはかるコミュニティ政策下で、復活したり、新しく創造された行事も含まれている。信濃教育会『子どもと年中行事』などに掲げられているものと比較すると、全国的な行事・家庭の主たる行事のかなり多くを、経験していると思われる⁽¹⁰⁾。また、注で示したように、地域によっては、独自の伝統的行事が継続して行われており、そこに参加したものもみられた。しかし、市町村誌などに集録されている民俗的な年中行事と比べると、かなりの行事が家庭・地域から姿を消し、したがって経験されていない⁽¹¹⁾。

2 模倣的な伝承的遊び

模倣的な伝承遊びの経験をきいた結果は、第4表のとおりである。長野県では、ままごと（68.9%）、お人形ごっこ（25.2%）、お店屋さんごっこ・買い物ごっこ（17.6%）、お医者さんごっこ・病院ごっこ（14.3%）などの順に遊ばれており、新潟県では、ままごと（76.9%）、お人形ごっこ（35.9%）、お医者さんごっこ（12.8%）、お店屋さんごっこ（10.3%）で、ほぼ似た結果となった。模倣的な伝承遊びは、おとなの営む生活の一部が模倣されたものであり、家庭生活の模倣を中心とするままごとが圧倒的に多い。回答者が女子学生のせいとお

第3表 年中行事の遊び

月	行 事 名 (サンプル数)	長 野 県				新 潟 県 (39人=100%)
		東 信 (78人)	北 信 (96人)	中 南 信 (65人)	計 (238人=100%)	
1	正月	人 (%) 16(20.5)	人 (%) 32(33.7)	人 (%) 10(15.4)	人 (%) 58(24.4)	人 (%) 6(15.4)
1	獅子舞	6(7.7)				
1	どんど焼き (三九郎)	54(69.2)	56(58.9)	58(89.2)	168(70.6)	17(43.6)
2	節分	41(52.6)	52(54.7)	33(50.1)	126(52.9)	22(56.4)
2	道祖神	9(11.5)	2(2.1)	2(3.1)	13(5.5)	
3又は4	ひなまつり	34(43.6)	40(42.1)	34(52.3)	108(45.4)	19(48.7)
3	彼岸	2(2.6)	11(11.6)	6(9.2)	19(8.0)	2(5.1)
4	春祭り		5(5.3)	3(4.6)	8(3.4)	2(5.1)
5又は6	端午の節供	21(26.9)	28(29.5)	20(30.8)	69(29.0)	14(35.9)
7又は8	七夕	43(55.1)	50(52.6)	36(55.4)	129(54.2)	21(53.8)
7	祇園祭	11(14.1)	2(2.1)	1(1.5)	14(5.9)	3(7.7)
8	花火大会 ※	10(12.8)	14(14.7)	9(13.8)	33(13.9)	4(10.3)
8	地域の夏祭り ※	13(16.7)	13(13.7)	6(9.2)	32(13.4)	8(20.5)
8	お盆, 盆踊り	22(28.2)	31(32.6)	26(40.0)	79(33.2)	16(41.0)
9	月見	4(5.1)	11(11.6)	9(13.8)	24(10.1)	8(20.5)
9	秋祭り		17(17.9)	11(16.9)	28(11.8)	6(15.4)
11	七五三	20(25.6)	27(28.4)	18(27.7)	65(27.3)	7(17.9)
12	クリスマス ※	13(16.7)	22(23.2)	15(23.0)	50(21.0)	8(20.5)
	餅つき	17(21.8)	26(27.3)	23(35.4)	66(27.7)	12(30.8)
	大晦日	14(17.9)	23(24.2)	17(26.2)	54(22.7)	10(25.6)
無記入		6	19	4	29	9

(注) 年中行事の回答には※印のように、コミュニティ政策の中で比較的近年になって催されるようになった行事なども含まれている。また、各地の伝統的な祭りをもとに、時代にふさわしい形につくり変えられた長野市の「びんずる祭り」や上田市の「上田わっしょい」、松本市の「青山様ぼんぼん祭り」などは、固有名で回答されていたが、7～8月に行われるものすべて表中では地域夏祭りとした。

このほか、地域に伝わる以下の行事も挙げられていた。

- 〈東信〉 佐久鯉祭り (佐久市 5月, 5人), とうかんや (佐久市, 東部町 11月, 2人), えびすこう (11月 1人), はつうま (2月 2人), 花まつり (4月 3人), 天神講 (1月 2人), かぐらひき (和田村 1人)
- 〈北信〉 花まつり (4月 1人), えびす講 (11月 3人), おかんでんさん (松代 1人), ひな市 (山ノ内町 1人), やしょんま (須坂市 3月 1人), とうろう流し (飯山市 1人), 虫送り (篠の井 8月 1人)
- 〈中南信〉 花まつり (4月 1人), へそ祭り (松本市 6月 1人), たいまつ祭 (松本市 10月 1人), おんべ (松本市, 飯田市, 上郷町 3人), けしぼうず (松本市 11月 1人), どんぶや (辰野町 2人), とりおい (辰野町 1月 1人), 亥の子 (岡谷市 10月 1人), 天神様 (駒ヶ根市他 1月 4人), とうろう流し (飯田市 1人)
- 〈新潟〉 島追い (川西町, 他 1月 3人), 雪中花水祝 (2月 1人), 川開き祭 (両津市 1人), 雪祭り (1人), さいの神 (新井市他 1月 3人), 風祭り (5月 1人), おたや (11月 1人)

第4表 模倣的な伝承的遊び

遊 び 名 (サンプル数)	長 野 県				新 潟 県 (39人=100%)
	東 信 (78人)	北 信 (95人)	中 南 信 (65人)	計 (238人=100%)	
ままごと	人 (%) 53	人 (%) 70	人 (%) 41	人 (%) 164(68.9)	人 (%) 30(76.9)
おうちごっこ	5		2	7(2.9)	4(10.3)
お母さんごっこ	7	8	10	25(10.5)	3(7.7)
お姉さんごっこ			3	3(1.3)	
お人形ごっこ, 人形遊び	22	27	11	60(25.2)	14(35.9)
お店屋さんごっこ, 買い物ごっこ	16	13	13	42(17.6)	4(10.3)
パン屋さんごっこ	1			1(0.4)	
ケーキ屋さんごっこ		1	1	2(0.8)	
八百屋さんごっこ		2		2(0.8)	
レストランごっこ		1	3	4(1.7)	
銀行ごっこ		2		2(0.8)	
花屋さんごっこ			1	1(0.4)	
ジュース屋さんごっこ	1	1	1	3(1.3)	
お医者さんごっこ, 病院ごっこ	13	11	10	34(14.3)	5(12.8)
学校ごっこ, 幼稚園ごっこ, 先生ごっこ	2	6	5	13(5.5)	3(7.7)
床屋さんごっこ, 美容院ごっこ	1		2	3(1.3)	
道路工事ごっこ	1			1(0.4)	
警察ごっこ, だるまごっこ	1	1		2(0.8)	
お姫様ごっこ	1	1	2	4(1.7)	1(2.6)
お金持ちごっこ					1(2.6)
歌手ごっこ, アイドルごっこ	1	2	2	5(2.1)	
テレビ番組のヒーローのまねごっこ (アニメごっこ)	4	6	3	13(5.5)	2(5.1)
おみこしごっこ	5	5	4	14(5.9)	
探検ごっこ, ピクニックごっこ		1	1	2(0.8)	
忍者ごっこ, ちゃんばらごっこ		1	1	2(0.8)	
電車ごっこ	1	2	3	6(2.5)	
戦争ごっこ			2	2(0.8)	1(2.6)
怪獣ごっこ			1	1(0.4)	
運動会ごっこ					1(2.6)

(注) ままごと, お店屋さんごっこなどは, その内容を特定して, 個々の名称で遊ぶことがあり, これらは回答のまま表にした。

人形ごっこもよく遊ばれているが, これらのお人形はリカちゃん, ジェニーなどほとんどが商品玩具が用いられている。また, おとなの仕事や職業の模倣遊びも多い。現代生活の変容やテレビ文化の浸透のなかで, アイドルごっこ, 歌手ごっこ, テレビ番組のヒーローのまねごっこ, アニメごっこなど, 必ずしも内容的には伝承といえない遊びも, 同時に回答されていた。

3 歌と動作が一体となった伝承的遊び

歌と動作が一体となった遊びで歌われる遊び歌は, 子どもの成長発達や生活内容に関連しな

がら、遊ばせ歌、あやし歌、手遊び歌、絵かき歌、数え歌、じゃんけん歌、お手合わせ歌、鬼遊び歌、替え歌という名称でも呼ばれている⁽¹²⁾。また、このような遊び歌は、わらべうたの一部をなし、いずれも遊びの動作をなめらかに運ばせる役割を果たす。

上笙一郎によれば⁽¹³⁾、わらべうたは、①遊びを目的として歌う歌、②歌うことそれ自体を目的とする歌、③仕事につながる歌に大別される。ここでは、主に①のわらべうたと付随する遊びを取りあげた。同氏は、①の遊び歌をさらに、絵かきうた、鬼遊びうた、縄とびうた、おはじき歌、からだ遊びうた、羽根つきうた、お手玉うた、手合わせうた、毬つきうたなどに分けている。そして、悪口うた、囃しうた、尻取りうた、替えうたなどの「口遊びうた」も、動作とはかかわらないが、子どもの遊びの場でうたわれるものだとする。

①の遊びうたを中心に、回答された具体的な遊び名（うたの名）でまとめたものを第5表に掲げる。長野県では、かごめかごめ（73.1%）、花いちもんめ（65.1%）、アルプス一万尺（30.3%）、郵便屋さん（29.8%）、だるまさんがころんだ（28.5%）、あずきあずき（28.1%）、押しくらまんじゅう（24.4%）、ずいずいずっころばし（24.4%）などが多い。新潟県も、花いちもんめ（69.2%）、かごめかごめ（53.8%）、あんたがたどこさ（35.9%）、アルプス一万尺（35.9%）が多い。これらは、4、5人～7、8人で、保育所、幼稚園、学校の庭や室内で行われると同時に、家の庭、広場、公園、お宮などでも遊ばれており、おせんべ焼けたかなをプールサイドでしたとする者も何人かいた。一方でアルプス一万尺の手合わせうたやお弁当箱のうたのように、新しくつくられた遊びがあり、他方でお手玉うたなどのように祖母から教えてもらったという学生が何人かおり、「一月、二月、三月さくら…」のうた（長野県麻績村）や下記のような歌詞とともに遊んだ経験をもつものもいた。

お手玉うた（新潟県 両津市）

あーおば しげちゃん さくにちはー（◎）いろいろ お世話に になりました（◎）

しげちゃん こんどの にちようび（◎）とうきょう じょがこうへ まいります（◎）

あなたも よくよく べんきょうを（◎）なされて ください たのみますー（☆）

（◎）で上にあげる。（☆）でもっと高くあげる。

また、ゴム段、ゴムとびも、ごんべさんの赤ちゃん、ロンドン橋おちた、ノータイムなどのうたをうたったり、「入って出て、入って踏んで、入って出て、ぐるっとまわって……」などのかけ声だったり。（長野県箕輪町、上越市）、「グーパーグー、踏んでパー、ぐるっとまわってチョキ……」のかけ声（新潟県燕市）、「まーるちゃんたら ぎっちょんちょんで パーイのパーイの実ー」などのうた（長野県辰野町）をとまなうなど、とび方はかなり共通しているが、いろいろな種類のうたで遊ばれている。

4 運動的な伝承的遊び

運動的な伝承遊びも、鬼遊び、石遊び、じん取り遊び、合戦遊び、用具を使う遊び（なわ、ごむ、お手玉、竹馬、こま、パッチンなど）、自然のなかでの遊び（木登り、雪合戦など）その他に分類が可能であろう。回答の具体名で作表したのが第6表であるが、※印にみるよう⁽¹⁴⁾

第5表 歌と動作が一体となった伝承的遊び（わらべうた遊び）

遊び名、わらべうた名 (サンプル数)	長野県				新潟県 (39人=100%)
	東信 (78人)	北信 (95人)	中・南信 (65人)	計 (238人=100%)	
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
〈鬼遊び〉					
かごめかごめ	57	67	50	174(73.1)	21(53.8)
花いちもんめ	47	61	47	155(65.1)	27(69.2)
あずきあずき (あずきまんま)	34	26	7	67(28.1)	3(7.7)
あぶく立った煮え立った		5	16	21(8.8)	9(23.1)
トントントン何の音	1		3	4(1.7)	2(5.1)
竹の子おくれ		1		1(0.4)	
ことしの牡丹		1	1	2(0.8)	1(2.6)
ポコペン	3	1		4(1.7)	
通しゃんせ	1	1		2(0.8)	
押しくらまんじゅう	17	26	15	58(24.4)	13(33.3)
だるまさんがころんだ	28	25	15	68(28.5)	9(23.1)
〈手遊び、からだ遊び、手あわせ〉					
一本橋	1	1	3	5(2.1)	
茶ちゃつぽ茶つぽ	2	2	1	5(2.1)	2(5.1)
ずいずいずっころばし	23	22	13	58(24.4)	10(25.4)
おせんべ焼けたかな	22	16	10	48(20.2)	7(17.9)
おちゃらかホイ	9	10	7	26(10.9)	7(17.9)
お寺の和尚さん	11	11	4	26(10.9)	5(12.8)
むすんで開いて	1		1	5(2.1)	
アルプス一万尺	27	28	17	72(30.3)	14(35.9)
大きな栗の木の下で	2	3	2	7(2.9)	1(2.6)
線路は続くよどこまでも	4	1	1	6(2.5)	
げんこつ山のタヌキさん	4	2	1	7(2.9)	2(5.1)
茶つみ	4	3	4	11(4.6)	5(12.8)
みかんの花		2	1	3(1.3)	3(7.7)
お弁当箱のうた おべんとう	5	4	1	10(4.2)	3(7.7)
〈縄とびうた・ゴムとびうた、お手玉うた、毬つきうた、輪くぐり〉					
郵便屋さん	21	33	17	71(29.8)	9(23.1)
大波小波	2		3	5(2.1)	2(5.1)
お嬢さんお入んなさい	2	6		8(3.4)	2(5.1)
いろはにほへと	3	4		7(2.9)	
一羽のカラス	3		1	4(1.7)	
あんた方どこさ	14	21	18	53(22.3)	14(35.9)
お手玉うた	4	5	6	15(6.3)	8(20.5)
ごんべさんの赤ちゃん他ゴムとびうた	3	7	13	23(9.7)	8(20.5)
ロンドン橋落ちた	6	3		9(3.8)	
なべなべ底抜け	1		2	3(1.3)	1(2.6)
〈じゃんけん〉					
どんぱっぱのじゃんけん	4			4(1.7)	
あっちむけホイ	3			3(1.3)	1(2.6)
じゃんけんブルドック	2	3	1	6(2.5)	
グリンピース		3		3(1.3)	
じゃんけんポイポイ		2	1	3(1.3)	
グリコ	6	7	2	15(6.3)	2(5.1)

(注) 口遊びうた、絵かきうたは除いた。

表に掲げるものの他、以下の回答が少人数からあった。(順不動) みそらーめん (東信4人)、アンパンまん (東信1人)、どらえもん (東信1人)、ちゅうかんそわい (東信佐久市2人)、ばんやけばんや (東信1人)、この指とまれ (東信1人)、指きりげんまん (東信1人)、イルカはざんぶらこの竹とび (東信1人)、ハワイ (東信2人 北信1人)、便所おとし (東信1人)、でんでん虫 (東信1人)、てんてんてんまり (北信1人)、にらめっこしましょ (北信1人)、ピン子ちゃん (北信1人)、どれにしようかな (北信1人)、モンチッチ (北信1人)、柿の種 (東信1人、北信1人)、じじばとのひめ (中南信1人)、海の子山の子便所の子 (中南信1人)、メリーさんの羊 (中南信1人)、鬼のパンツ (中南信1人)、金のくさり (中南信1人)、桃太郎 (中南信1人)、トントントンこぶじいさん (新潟1人)、糸をまきまき (新潟1人)、うさぎのもちつき (新潟1人)

第6表 運動的な伝承遊び

遊 び 名 (サンプル数)	長 野 県				新 潟 県 (39人=100%)
	東 信 (78人)	北 信 (95人)	中・南信 (65人)	計 (238人=100%)	
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
おにごっこ	36	54	37	127(53.4)	21(53.8)
こおりおに	31	34	16	81(34.0)	14(35.9)
高おに	20	25	16	61(25.6)	7(17.9)
色おに	31	34	17	82(34.5)	13(33.3)
手つなぎおに	23	21	10	54(22.7)	8(20.5)
ひょうたんおに(8の字おに)	11	8	5	24(10.1)	3(7.7)
十字架、スイスの旗、田んぼおに	3	7	1	11(4.6)	7(17.9)
ジャングルおに					2(5.1)
お助けおに					6(15.4)
かげ鬼、かげふみ	5	5	1	11(4.6)	3(7.7)
缶けり ケット(ン) おに	41	43	23	107(45.0)	27(69.2)
だるまさんがころんだ	28	25	15	68(28.6)	9(23.1)
おしくらまんじゅう	17	26	15	58(24.4)	13(33.3)
かくれんぼ	46	48	39	133(55.8)	27(69.2)
ポコペン	3	1	1	5(2.1)	1(2.6)
どろけい(どろぼうと警察) どろじゅん (巡査) ねことねずみ	1	1	5	7(2.9)	
けんけんぼ	11	8	9	28(11.8)	11(28.2)
かかし	1	1	2	4(1.7)	1(2.9)
じんとり(じんちとり)	9	7	8	24(10.1)	6(15.4)
Sけん(うずまきS字)(うずまきじゃんけん)	3	6	5	14(5.9)	
宝さがし、宝島ゲーム	3			3(1.3)	3(7.7)
温泉(取り)	3		2	5(2.1)	
石けり	5	9	7	21(8.8)	6(15.4)
棒たおし	5	15	4	24(10.1)	6(15.4)
グリコ	6	7	2	15(6.3)	1(2.6)
竹馬	15	17	16	31(13.0)	8(20.5)
缶ぽっくり	3	5	8	16(6.7)	2(5.1)
めんこ	2	5	2	9(3.8)	3(7.7)
こま	5	7	4	16(6.7)	2(5.1)
ハンカチおとし	4		5	9(3.8)	1(2.6)
お手玉	4		1	5(2.1)	1(2.6)
おはじき	2	3	2	7(2.9)	1(2.6)
ケン玉			3	3(1.3)	1(2.6)
まりつき	1			1(0.4)	
(長)縄とび	34	37	21	92(38.7)	24(61.5)
ゴムとび、ゴム段	46	68	38	152(63.9)	23(59.0)
水切り			1	1(0.4)	
木のぼり	3		5	8(3.4)	1(2.6)
探検ごっこ おとし穴	1		1	2(0.8)	1(2.6)
イスとりゲーム	1	5		6(2.5)	
馬とび	1	1		2(0.8)	
靴なげ(ブランコから)、靴とばし	2	1	2	5(2.1)	
指ずもう		1	1	2(0.8)	
腕ずもう		1	1	2(0.8)	
すもう	※ 1	6	1	8(3.4)	1(2.6)
ドッジボール(中あて)	※ 8	4	1	13(5.5)	2(5.1)
野球、ソフトボール、キックベース	1	3	5	9(3.8)	3(7.7)
サッカー	※ 4	2		6(2.5)	3(7.7)
バスケット	※ 1			1(0.4)	
バドミントン	※ 1	1		2(0.8)	2(5.1)
ローラースケート	※	2		2(0.8)	

(注) 表中に掲げてない少数の遊びとして以下のものが、回答された。
 世界一周(東信1人)、便所おとし(東信1人)、四角じゅう(東信4人)、くつとり(東信1人)、ひまわり(東信1人)、インディアンがフォフォフォフォ(東信1人)、しまおに(東信1人)、階段おに(東信1人)、ぐんかんじゃんけん(東信1人)、石かっちゃん(北信1人)、線おに(北信1人、新潟2人)、三角おに(中南信1人)、震源地(中南信1人)、とうふやのばばあ(中南信1人)、ロケット発射(新潟2人)、丸おに(ひっぱりおに、新潟1人)、りんごが1つ(新潟1人)、大根ぬき(新潟1人)

第7表 小学生のよくする遊び

1984年調査 (816人=100%) 女の子	1989年調査 (765人=100%) 女の子	1989年調査 (827=100%) 男の子
1位 鬼ごっこ・かくれんぼ 31%	1位 鬼ごっこ・かくれんぼ 30%	1位 野球・ソフトボール 49%
2位 ドッジボール 26	2位 ドッジボール 17	2位 テレビゲーム 34
3位 ゴムとび 14	3位 トランプ 14	3位 サッカー 28
4位 おしゃべり 14	4位 本・マンガを読む 11	4位 ドッジボール 24
5位 ブランコ・すべり台 13	5位 おしゃべり 10	5位 鬼ごっこ・かくれんぼ 20

NHK世論調査部編

『現代小学生の生活と意識』1991年 明治図書22頁。

よくする遊びを3つ答える。自由回答。参考までに1989年男の子のものも加えた。

に、伝承的な和楽的要素をもつのではなく、スポーツとして遊ばれるものも多く含まれていた。長野県では、ゴムとび (63.9%)、かくれんぼ (55.8%)、おにごっこ (53.4%)、缶けり (45%)、縄とび (38.7%) が多く、次いで鬼ごっこの変種や、だるまさんがころんだ (28.4%)、押しくらまんじゅう (24.4%) が続いている。新潟県では、かくれんぼや缶けり (ともに69.2%)、縄とび (61.5%)、ゴムとび (59.0%)、おにごっこ (53.8%) が多い。NHK世論調査部によると、小学生の女子がよくする遊びは、第7表のように、1984年、1989年両年とも、鬼ごっこ、かくれんぼが一番多く、1984年には、ゴムとびも3位にあがっており、その点は共通性が認められる。遊ぶ場所も室内、屋外、家や地域の広場、学校、保育所などであった。竹馬、けんけんば、じんとり、棒たおしなども約1割の学生が経験しているが、長野県学校体育研究会『長野県につたわるこどもの遊び』に収集されている多種ある遊びと照らしあわせると、四段とびやくぎさしのように回答には皆無であったものや、馬とび (小諸市他)、くつとり (上田市)、石かっちゃん (長野県信州新町) などほんの少数のみが経験してきた遊びも多い。つまり多くの学生が経験したものと、ほとんど伝承されなくなっている遊びとに二極分解されているように思われる。

5 野の玩具による伝承的遊び

ここでは、野山に自生している野草や樹木の葉や茎、花、実などを材料にした遊びの経験をたずねた。第8表のように、長野県では、花輪づくり (シロツメクサなどで70.1%、タンポポ29.8%)、笹舟 (34%)、オオバコの草ずもう (30.3%)、タンポポの茎の笛 (26.1%)、コスモスなどの花びら占い (25.2%)、ペンペン草の鈴 (23.5%)、スズメノテッポウや笹の葉などの笛 (21.4%) などの遊びが経験されている。新潟県では、花輪づくり、オオバコの草ずもう、草笛、笹舟、花びら占いなどが比較的多くあがった。開発がすすんだとはいえ、まだ豊かな自然を残す長野県、新潟県で子ども時代を送った学生たちは、これら野山の草花を使う遊びを比較的多く経験しているように思われる。また、回答には成育の居住地の自然環境が反映して、1～2種類のみをあげた学生と、何種類も図説を加えて記入する学生とがみられた。そして、全体的には、やはり運動的遊びと同様、身近に素材があり、手軽に遊べるため多く経験されて

第8表 野の玩具による伝承的遊び

野の玩具名 (サンプル数)	長野県				新潟県 (39人=100%)
	東信 (78人)	北信 (95人)	中・南信 (65人)	計 (238人=100%)	
	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
花輪 (冠, 首飾り, 腕輪, 指輪)					
クローバー, シロツメクサ, れんげ草	51	68	48	167(70.1)	28(71.8)
タンポポ	17	27	27	71(29.8)	6(15.4)
花びら占い(マーガレット, コスモス, タンポポ)	18	23	19	60(25.2)	11(28.2)
葉ぬき占い, 木の葉占い	2	5	4	11(4.6)	1(2.6)
四ツ葉のクローバー探し	3	8	5	16(6.7)	8(20.5)
山菜とり	1		8		6
草笛 (スズメのテッポウ, ササ, よし, おどりこ草, ショウブ)	16	21	14	51(21.4)	14(35.9)
タンポポの茎の苗	19	25	18	62(26.1)	3(7.7)
木の葉の苗 (かき, つばき, ゆずり葉, マサキ, お茶他)	8	7	12	27(11.3)	2(5.1)
からすのえんどうの笛	15	23	2	40(16.8)	
花びらの苗(コスモス, ホタルブクロ, ききょう)	6		1	7(2.9)	
ぺんぺん草の鈴 (なずな)	15	30	11	56(23.5)	2(5.1)
ほおずき (風船)	5	5	9	19(8.0)	9(23.1)
タンポポの茎の風車, 水車, キャンディー	8	12	8	28(11.8)	9(23.1)
クローバーの茎のキャンディー	4	15	6	25(10.5)	1(2.6)
染めもの (ホウセンカ, アサガオ)	4			4(1.7)	1(2.6)
草花ジュース	5	3		8(3.4)	1(2.6)
オオバコの草ずもう	24	29	19	72(30.3)	17(43.6)
マツバの草ずもう (他, スミレ, タンポポ, ツクシ)	3	1	5	9(3.8)	2(5.1)
ネコジャラシのアメ, 毛虫, うさぎ	4	11	4	19(8.0)	2(5.1)
笹舟	28	32	21	81(34.0)	12(31.1)
笹あめ, ちまき	1	4	3	8(3.4)	2(5.1)
どんぐりごま	5	1	3	9(3.8)	2(5.1)
どんぐりのやじろべえ	1		2	3(1.3)	
ほおずき人形	1			1(0.4)	1(2.6)
ススキのみみずく					1(2.6)
かんざし (ススキ他)					3(7.7)
タンポポ等の首チョンパ	3	10	2	15(6.3)	
アオイの花のにわとりのときか	1	1	1	3(1.3)	
雑草をしばったワナ	1	1	1	3(1.3)	
花のみつを吸う (サルビア, ツツジ)	1	3	2	6(2.5)	6(15.4)
葉っぱの絵	1			1(0.4)	
バカのくつつけあい	3	2	1	6(2.5)	5(12.8)
桑の実を食べる	2		1	3(1.3)	1(2.6)
竹の水鉄砲	1		1	2(0.8)	
スモウトリの傘	2	2		4(1.7)	
草花を使ったとっかん遊び		2		2(0.8)	
ススキをしばった基地や家		1		1(0.4)	1(2.6)
竹馬			2	2(0.8)	
オオバコの葉の筋をとってゴム, おじぎ			4	4(1.7)	2(5.1)
ツクシのふしあて		2	2	4(1.7)	3(7.7)
ささの茎や葉を使う風車			1	1(0.4)	1(2.6)
草をあむ (縄やゴザ)			1	1(0.4)	2(5.1)

(注) 野の玩具遊びには、このほかにも以下のように多種の遊び方がみられた。

スミレや柿の花の花輪 (東信各1人), どんぐりの木の実打ち (東信1人), ききょうのつばみ
やホタルブクロのとっかん遊び (東信各1人), ひいらぎの葉の風車 (東信1人), コスモスの風
車 (東信1人), 花のいれずみ (北信1人), スイコ, スグリを食べる (北信各1人), 草雛 (北
信1人), おちば毛布 (北信1人), 花で爪染め (中南信1人), 木の枝にくもの巣をはる金魚す
くい (中南信1人), 花しおり (中南信1人), 花束 (中南信1人), からたちの実の鉄砲 (中南
信1人), ねこだまみつけ (中南信1人), 茶だまを踏んでカメラ (中南信1人), スイコンボウ,
イタドリ, あけび, ひまわりの種を食べる (中南信各1人), 木の枝で作る弓矢 (中南信1人),
ハスの葉のカサ (新潟1人), トチの実笛 (新潟1人), タンポポの茎の注射 (新潟1人)

第9表 季節的に特色ある伝承的遊び

季節	遊 び	長 野 県				新潟県 (39人=100%)
		東 信 (78人)	北 信 (95人)	中・南信 (65人)	計 (238人=100%)	
		人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
冬	雪遊び	7	11	6	24(10.1)	9(23.1)
	雪だるま	19	21	15	55(23.1)	13(33.3)
	雪うさぎ	3	4	3	10(4.2)	3(7.7)
	かまくら	20	27	30	77(32.4)	25(64.1)
	雪のすべり台	4	5	3	12(5.0)	4(10.3)
	雪合戦	32	40	29	101(42.4)	25(64.1)
	そり	14	21	14	49(20.6)	14(35.9)
	スキー	5	16	4	25(10.5)	8(20.5)
	しみ渡り					5(12.8)
	雪の上に絵をかく			1	1(0.4)	2(5.1)
	雪像づくり					5(12.8)
	スケート	5	2	4	11(4.6)	1(2.6)
	かるた	37	38	21	96(40.3)	14(35.9)
	百人一首	10	7	7	24(10.1)	1(2.6)
	花札	14	18	19	51(21.4)	6(15.4)
	トランプ	9	10	1	20(8.4)	8(20.5)
	おてだま	2	2		4(1.7)	1(2.6)
	めんこ	1	3		4(1.7)	
	こままわし	19	21	14	54(21.4)	3(7.7)
	羽根つき	17	18	15	50(21.0)	3(7.7)
	福笑い	4	18	5	27(11.3)	6(15.4)
	すごろく	12	17	8	37(15.5)	6(15.4)
	たこあげ	48	45	34	127(53.3)	4(10.3)
春	花見	12	8	13	33(13.9)	7(17.9)
	花つみ、ピクニック	6	6	8	20(8.4)	3(7.7)
	山菜とり (よもぎ、フキのとう他)	1	4	8	13(5.5)	6(15.4)
	色水あそび・草木染め	1	1	2	4(1.7)	5(12.8)
	花の首飾り、冠、腕輪、指輪づくり	9	5	3	17(7.1)	4(10.3)
	おたまじゃくしとり	5	2	3	10(4.2)	5(12.8)
夏	草の上のダンボールすべり	2	2	1	5(2.1)	
	きもだめし、おばけあそび	10	10	10	30(12.6)	4(10.3)
	水遊び、水鉄砲	10	3	10	23(9.7)	4(10.3)
	川での魚とり、川遊び、水泳、つり	12	11	14	37(15.5)	12(30.8)
	プール	13	9	11	33(13.9)	7(17.9)
	海での遊び	1	3	1	5(2.1)	5(12.8)
	山での遊び	2	1	1	4(1.6)	2(5.1)
	キャンプ	1		4	5(2.1)	1(2.6)
	虫とり (カブトムシ、クワガタ、セミ等)	11	14	13	38(16.0)	13(33.3)
	沢ガニ、ザリガニとり	5	4	4	13(5.5)	5(12.8)
	花火	13	14	7	34(14.3)	3(7.7)
	すいか割り	4	5	4	13(5.5)	3(7.7)
	ホタルがり	1	1		3(0.8)	
秋	どんぐり拾い、どんぐりこまづくり (木の実、マツボックリ)	10	6	9	25(10.5)	4(10.3)
	落ち葉集め (ベッド、お面、絵、人形)	7	5	6	18(4.6)	8(20.5)
	栗ひろい		1	4	5(2.1)	
	やきいも (大会)	11	27	12	50(2.1)	4(10.3)
	たき火	1	1	2	4(1.6)	1(2.6)
	トンボとり	2	4	5	11(4.6)	7(17.9)
	バッタとり	2		1	3(1.3)	2(5.1)
	イナゴとり	3	2	2	7(2.9)	
	ススキとり	1		1	2(0.8)	1(2.6)
	きのこ狩り	1		2	3(1.3)	1(2.6)

(注) 表中の遊びの他、少数であるが以下の遊びがあげられていた。

冬 おしくらまんじゅう (東信1人 中南信1人)、竹馬 (東信3人)、縄とび (東信1人)、すもう (東信1人)、まりつき (東信人)、縄作り (東信1人)、オセロ (東信1人 北信1人)、

あやとり（北信1人 中南信1人）、雪でおとし穴づくり（新潟1人）、雪の中にものを隠して探す（新潟1人）、氷づくり（容器に水を入れ絵の具、草、実を入れ凍らせる）（新潟1人）、雪台をつくり、何人のれるか競う（新潟）

春 ありの巣に爆竹をいれる（北信1人）、ちょうちょとり（中南信1人）

夏 桑の実（グミ）とり（北信1人 中南信1人）、かえるとり（北信1人）、どろんこ遊び（中南信2人、新潟1人）、田んぼ泳ぎ（中南信1人）、あり地獄（中南信2人）、すももとり（中南信1人）、貝拾い（新潟2人）、水中ずもう（新潟1人）

秋 わらの家づくり（東信1人 中南信1人）、ほおずき（北信1人）、あけびとり（北信1人 中南信1人）、田んぼ渡り（中南信1人）、もみじ狩り（中南信1人）、落ち穂拾い（新潟1人）、山のぼり（東信1人、新潟1人）

きた草花あそび群と、少数のみが経験してきたあそび群とに分かれる傾向があると思われる。

6 季節的に特色ある伝承的遊び

ここでは、季節的な気候、自然などを生かして遊ぶ伝承的遊びの経験をたずねた。第9表に示すように長野県では、冬にさまざまな雪遊び、すなわち雪合戦（42.4%）、かまくら（32.4%）、雪だるま（23.1%）、そり（20.6%）などが経験され、お正月の遊びとしての、たこあげ（53.3%）、かるた（40.3%）、花札、こま（ともに21.4%）、羽根つき（21.0%）なども経験されている。春は花見（13.9%）、花つみ（8.4%）などで、夏は、虫とり（16.0%）、川遊び（15.5%）、花火（14.3%）、きもだめし、おばけあそび（12.6%）などが、そして秋には、やきいも（21%）、どんぐり拾い（10.5%）があがっている。新潟県もほぼ同種の遊びとなっているが、冬の降雪量が多いこともあり、雪遊びでは一段と比率が高くなっており（雪合戦64.1%、かまくら64.1%、そり35.9%、雪だるま33.3%など）、しみ渡り・雪像づくり・雪のおとし穴・雪中へのもの隠しなどバラエティーにとんだ雪の遊びを楽しんだ経験をもっているようである。また、春の山菜とり（15.4%）、夏の川遊び（30.8%）、虫とり（33.3%）、海での遊び（12.5%）、秋のトンボとり（17.9%）なども、長野県より経験したものの割合が高い。

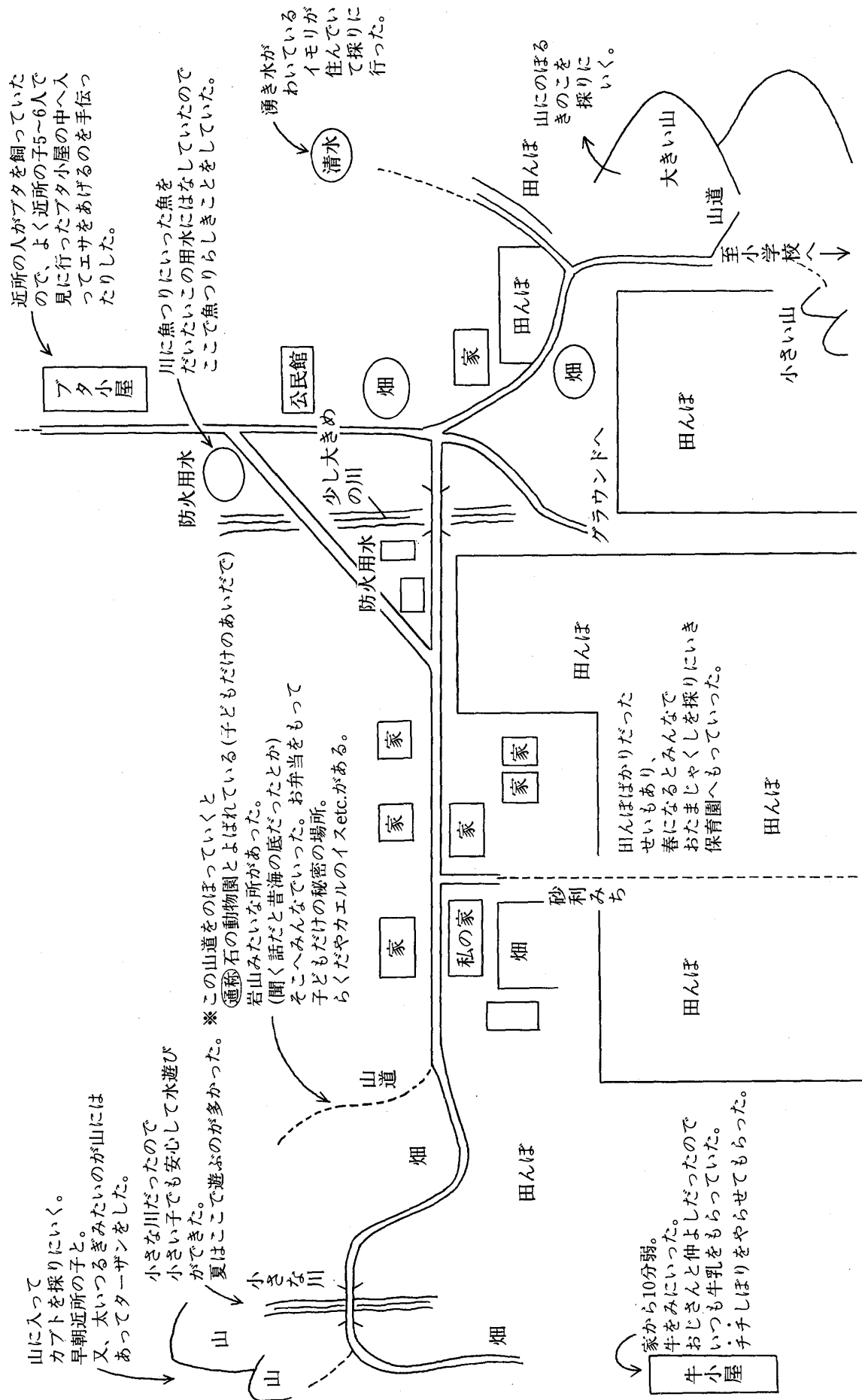
自然のなかでの遊び、自然になれ親しむ体験が現代の子どもたちには減少したと、一般的にいわれている。四季の自然環境を、山、川、海の遊びのなかから身体を通して感じ、雪や氷を楽しみ、魚、虫、カニ、トンボ、山菜、植物について遊びのなかから知り、なれ親しんでいくこれらの経験は、現代の環境教育の面からも注目されているところである。⁽¹⁶⁾

野の玩具の経験とこの結果をあわせて考えると、いわば自然のなかでの伝承的遊びは、長野県、新潟県の地域では、比較的多く経験されていると思われる。

7 思い出の遊び場地図

ここでは、子ども時代に楽しく遊んだ場所の絵地図を当時の状態で絵地図に描いてもらい、（第2図）、遊び空間を集計した（第10表）。長野県では、川・川原（28.6%）、田や畑（27.3%）、公園・広場・グラウンド（23.5%）、山・森・林（18.1%）、道（16.0%）、神社・寺院（14.7%）、友だちの家・近所の家（13.4%）、家の庭・家のまわり（12.6%）、学校の庭（11.8%）、空き地（10.9%）などであった。新潟県も、川、田や畑、道、神社、山や林、空

第2図 遊び場地図の例（長野県麻績村）



第10表 思い出の遊び場地図

場 所	長 野 県				新潟県 (39人=100%)
	東 信 (78人)	北 信 (95人)	中・南信 (65人)	計 (238人=100%)	
川, 小川, 川原, 沢	17 人 (%)	28 人 (%)	23 人 (%)	68(28.6) 人 (%)	18(46.1) 人 (%)
野原, 草むら	2	1	1	4(1.7)	3(7.7)
裏山, 山, 森, 林	14	14	15	43(18.1)	10(25.4)
竹やぶ	1	4	1	6(2.5)	
田や畑	13	28	24	65(27.3)	18(46.1)
池	1	4	7	12(5.0)	2(5.1)
土手	3	2	2	7(2.9)	4(10.2)
空き地	15	6	5	26(10.9)	10(25.4)
道 (家の近く, 通学路)	15	14	9	38(16.0)	12(30.8)
駐車場	2	6	8	16(6.7)	6(15.4)
家の庭, 家のまわり	6	14	10	30(12.6)	5(12.8)
家の中	1			1(0.4)	
友だちの家, 近所の家	9	12	11	32(13.4)	5(12.8)
空き家	3	5	2	10(4.2)	3(7.7)
豚小屋, 牛小屋	1	2	2	5(2.1)	1(2.6)
廃材置場, 資材置場, 工事場, 倉庫, 工場	5	4	5	14(5.9)	4(10.3)
学校の庭	7	12	9	28(11.8)	7(17.9)
幼稚園・保育園の庭	4	6		10(4.2)	3(7.7)
公園・広場・グラウンド	19	21	16	56(23.5)	9(23.1)
神社, お寺の境内	8	21	6	35(14.7)	10(25.4)
公民館・公会堂 (の庭)	4	13	5	22(9.2)	2(5.1)
児童館, 児童センター	1		1	2(0.8)	
海, 海岸					4(10.3)
無記入	18	21	11	50	4

第11表 ふだん遊ぶ場所 (女の子)

1984年調査 (860人=100%)		1989年調査 (765人=100%)	
1 位	公園・グラウンドなど 47%	1 位	自分の家の中 46%
2 位	自分の家の中 42	2 位	公園・グラウンドなど 41
3 位	学校の運動場 (校庭) 36	3 位	学校の運動場 (校庭) 31
4 位	友だちの家・近所の家 35	3 位	友だちの家・近所の家 31
5 位	自分の家の庭・家のまわり 25	5 位	自分の家の庭・家のまわり 24

NHK世論調査部編『現代小学生の生活と意識』

1991年 明治図書 23頁

よく遊んでいる場所を3つまであげる自由回答

き地、公園や広場、学校の庭の順になっている。ただし、両県とも川と田や畑が高率なのは、遊んだ場所としても明確に記述されているものの他、家の周囲にあったという分も含まれると考えられるため、実際にはもう少し低いだろう。

この結果を、NHK世論調査部の子ども調査（第11表）と比較すると、自分の家の中をのぞいて、ほぼ同傾向がみられる。⁽¹⁷⁾本調査では、遊び場を絵地図で表わしたため、家の中という回答があまりなかった。また、単なる周辺環境として記入された分をのぞいても、川、田や畑、山や林などの遊び場は、本調査で多めである。神社・寺院・空き地においても多めである。これらの差異は、地理的な環境の差を反映すると同時に、現によく遊ぶ場と、一番楽しく、おもしろかった遊び場として印象深く思い出に残っている場所とのずれを示しているように思われる。⁽¹⁸⁾それとともに、何人かの回答には、「昔は空き地であった」とか、「かつては林であったが今はない」、「池があったが今は埋めたてられた」などの記述があり、十年ほどの間に、今回の回答者の居住地周辺も、年々変貌しているようである。そして、遊び場には、各人の居住地の地理的環境、文化的環境の違いから、個人差もでている。

四 おわりに

第二次世界大戦前までは、子どもたちの生活の中に伝承遊びが生きていたとされる。戦後50年を経た現在、戦前に残っていた年中行事の遊びは、時の推移につれかなり変容し、日常的な子どもの遊びも、社会の変化につれて完全に消滅したものもあれば、消えつつある遊びも少なくない。そして、現代の子どもたちの遊び全体と遊び環境は、第二の変化の時代にあるとの指摘は前述のとおりである。

1980年代に小学生であった学生を対象とした、伝承的遊びの経験調査は、すでに報告したとおり、かなり多くのものが経験する限られた種類の伝承的遊びと、ごく少数のものが経験してきただけの多種の伝承的遊びがあることを浮きぼりにした。今回の調査では、遊んだことがある伝承遊びを記述してもらったためか、予想以上に経験し、遊びを知っていた。しかし、遊び全体の中での伝承遊びの位置をたずねると、どうであろうか。経験した回数や、時間、そこで味わった面白さ、楽しさなど、今回はふみこめなかった要素の解明が今後必要だと考えられる。

また、伝承遊びを覚えた契機、どこでだれに教えてもらい遊んだのか、つまり現代、これらの遊びが伝承されている場はどこなのか、重要な観点である。今回は独立した項目をたてなかったが、兄弟、（同年、異年齢の）友だち、家の父母・祖父母、幼稚園・保育所、学校の教師、地域のおとななどが考えられる。伝承の場と契機は、遊びの種類によって異なるだろうが、学生の回答からは、年中行事のばあい、家庭で接するほかに、どんど焼き、お祭りなどの年中行事を経験してきた背後に、育成会や自治体、また自治会などの場面設定があること、餅つき、節分、ひなまつりなども幼稚園・保育所、学校などによる機会の設定があることが、みてとれる。歌と動作が一体となった、わらべうた遊びや、運動的な遊びも、花いちもんめ、あずきあずき、おにごっこ、かくれんぼを幼稚園や保育園でしたという者も多く、ゴムとびなど

は、小学校時代に廊下・教室を利用してなされていた。これらの遊びは、同時に公園・神社などでインフォーマルな子ども集団のなかでも行われているが、公的保育・教育の場が、果たしている役割も大きく、この公的保育・教育の場で伝承遊びに出会うことが伝承遊びを子どもたちに多く経験させることにつながっていると考えられる。

幼稚園教員養成課程をもつ東京学芸大学では、その幼児教育学研究室で『幼児教育教育養成の研究』をまとめているが、その研究目的に「幼児も保育者となる学生も遊びを知らない状況の中で、幼児を理解し共に生活する若者をどう育てるか」ということがあげられている⁽¹⁹⁾。また、今後の課題として、「学生達の生活経験の欠如」に対して、大学の教員養成カリキュラムのなかにも、もっと「生活課題的製作活動の導入」を提案している。ここに提起されている課題は、短期大学における保育者養成においても共通すると思われる。このように一般に指摘されるような学生たちが遊びを知らないことも、生活経験が欠如していることも、乳幼児期から大学入学までの、家庭生活、幼稚園・保育所、学校での生活、地域での生活そのものの結果であり、大学の養成課程で全面的にその解消をはかるのは困難であろう。しかし、「遊びを知らないこと」や「生活経験の欠如」の内実や程度の、より正確な実態把握に基づき、保育者養成カリキュラムに反映させることは必要である。今回の調査は、このような一連の課題を考えるため、学生たちの遊び経験のなかから特に伝承的遊びをとりあげ、実態を明らかにしようとするものである。

注

- (1) 藤本浩之輔『子どもの遊び空間』 1974年 日本放送出版協会
 - (2) 藤本浩之輔・相馬大『日本伝承の手づくりの遊び』 1972年 創元社
 - (3) 斉藤良輔『昭和玩具文化史』 1978年 住宅新報社
 - (4) 仙田満『子どもとあそび』 1992年 岩波書店 172頁
仙田満『こどものあそび環境』 1984年 筑摩書房
 - (5) (4)『子どもとあそび』 171～172頁
 - (6) 村山貞雄他「幼児保育の検討に関する調査」 保育学年報1989年版『幼児の表現と保育』所収 日本保育学会 フレーベル館 325～328頁
 - (7) 滋賀県教育委員会 幼稚園教育指導資料3 『伝承遊びを生かした保育』 1987年
 - (8) 望月重信「現代の子どもの遊び環境と遊びの変化」 『児童心理』1995年9月号 金子書房 43頁
 - (9) (7)『伝承遊びを生かした保育』 6頁
 - (10) 信濃教育会『子どもの年中行事』 1973年 信濃教育会出版部 巻末の「県内年中行事一覧表」
 - (11) たとえば、上田・小県地方の年中行事を集録した『郷土の民俗 年中行事』上田市立博物館。また古川貞雄『村の遊び日一休日と若者組の社会史』 1986年 平凡社でも、祭礼休日と農休日のありようは、高度経済成長期に決定的に変わったとする。
 - (12) 高萩保治「現代の子どもとわらべうた」『児童心理』1995年9月号 金子書房
 - (13) 上笙一郎『日本のわらべ唄』1972年 三省堂
- 他に表の分類などに際しては、柴田耕穎・鈴木敏朗共著『わらべうたとあそび』全音楽譜出

版社、谷本文子『わらべうた遊び』1977年 日東書院、藤田恵一編著『入門期の音楽指導—子どもの遊びと音楽教育』1965年（私家版）などを参照した。

- (14) 長野県学校体育研究会編著『長野県につたわるこどもの遊び』1984年 光文書院
- (15) 藤本浩之輔『草花あそび事典』 くもん出版、奥成達『遊び図鑑』1995年 福音館書店
- (16) 寺本潔 「まず“四感”を働かせよ」『自然教育活動32 特集 環境感覚を育てる』 1995年5月号 農山漁村文化協会、同『感性が咲く生活科』 大日本図書
- (17) NHK世論調査部編『現代小学生の生活と意識』1991年 明治図書
- (18) 河崎道夫「遊び仲間の意味と形成」前出『児童心理』1995年9月号。ここで河崎は、子ども時代に、ほんとうにおもしろかった体験を大学生にレポートしてもらおうと、大半の学生が、探検遊び、秘密基地づくり（小屋）をあげ、つぎに多いのが山や川、野原での虫とり、魚とりなど自然と生き物を相手にした遊びだという。また、寺本潔は、子どもの自主的な活動空間として、「秘密基地」「子ども道」「お化け屋敷」「子どもの地名」などに注目している。（寺本潔『子ども世界の地図』 1988年 黎明書房）
- (19) 東京学芸大学幼児教育学研究室編『幼児教育教員養成の研究』1994年、非売品。小川博久による同書「図書紹介」『教育学研究』第62巻第4号、1995年12月。